

アドバイス支援の実施方法について（参考例）

効果的なアドバイス支援を行うため、本年度は、以下に記述する「1. ワークショップ（WS）方式」或いは、「2. コンサルティング方式」のいずれかの方法を参考に実施方法を検討してください。（別の手法であっても構いません。）

1. ワークショップ（WS）方式

（1）体制

- ・メーカーと専門職、両者の合意形成や相互理解を促すファシリテータの3者でグループを構成
- ・専門職は、多様な観点から意見が出せるように複数の資格者（介護職、看護職、リハ職など）及び複数の業務（特養、デイサービス、訪問介護等）で構成することが望ましい
- ・1グループ5～6名程度で構成。できれば2グループ構成
- ・専門職は、介護・リハビリ等の業務の専門職ではあるが、機器の専門職である必要はない

（2）方法

①ワークショップ（1回目）

フェーズ1：試用評価

WS参加者に実際に機器を使用してもらい、気づいた点をリストアップ

フェーズ2：ヒアリング調査

メーカーから専門職へのヒアリングと意見交換

各参加者に以下の点を宿題として依頼

- ・気づいた点
- ・使用に関する課題
- ・商品化に向けて考慮してほしい事柄

②ワークショップ（2回目）

フェーズ3：商品化に向けて課題の整理

各参加者から、宿題を発表いただき、その内容を開発の要素別に分類しマップ上に整理したうえで、意見交換会を行う。

2. コンサルティング方式

（1）体制

対象機器と類似する分野の機器のコンサルティング経験を有する専門家（最低2名以上）で評価チームを構築

（2）方法

①1回目の会議（機器説明）

- ・メーカーに機器を持参いただき、機器の操作説明を受ける。

- ・メーカーの説明をもとに、評価チームが実際の機器の動作を確認する。
- ・機器の開発コンセプトや工夫した点、課題、疑問に感じている点などをメーカーと意見交換する。

②評価機関における評価（評価項目の設定と試用評価）

- ・1回目終了後、機器を評価施設に1か月程度設置
- ・機器に合わせて評価チームが評価項目を設定
- ・機器設置期間中に評価チームやその施設等の職員などに試用いただき評価してもらう
- ・設定した評価項目に沿って評価した各人の結果を評価チームが取りまとめる

③2回目（評価結果の説明および意見交換）

- ・評価結果をもとにメーカーと評価チーム、施設職員等において意見交換を行う

◆参考資料：昨年度のアドバイス支援の状況

事務局・問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会

企画部 加藤・五島・谷田

162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

セントラルプラザ4階

電話 03-3266-6883

メール monitor@techno-aids.or.jp